

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-142	24-068	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Alcohol consumption among persons living with hypertension: evidence from a population-based study in Cape Verde 高血圧患者におけるアルコール消費：カーボベルデにおける人口ベースの研究からのエビデンス		
執筆者		
Okyere J, Ayebeng C, Dickson KS.		
掲載誌		
BMC Public Health. 2025 Mar 5;25(1):883. doi: 10.1186/s12889-025-21663-1.		
キーワード	PMID	
高血圧、アルコール、公衆衛生、非感染性疾患	40045234	
要 旨		
<p>背景：アルコール消費が高血圧リスクに及ぼす影響は広く知られているが、高血圧を有する者の中にはアルコールを摂取し、アルコール使用障害 (AUD) のリスクを抱えている場合がある。この矛盾は公衆衛生上の重大な懸念であり、高血圧患者のアルコール消費行動を理解する必要がある。本研究は、カーボベルデにおける高血圧患者におけるアルコール消費および AUD の有病率と関連因子を調査した。</p> <p>方法：2020 年の WHO STEPS 調査の二次データを用い、カーボベルデの成人 1,136 名を分析対象とした。アルコール使用障害 (AUD) については、依存症の症状、機能障害、社会的・家族的問題について 5 段階で調査し、「全くない」を AUD なし、その他の回答を AUD ありとした。説明変数は、性別、年齢、婚姻状況、教育水準、居住地、現在の喫煙状況、過体重/肥満状況 (BMI から算出)、塩分の多い加工食品の摂取とした。クロス集計、二変量および多変量ロジスティック回帰分析を実施し、調整オッズ比 (AOR) と 95%信頼区間 (CI) を報告した。</p> <p>結果：全体の 69.1% (784 名) がアルコールを消費していた。そのうち 22.8% が AUD に該当し、過去 12 ヶ月間にアルコールを摂取した者の 13.7% にアルコール依存症状がみられた。社会的・家族的問題および機能障害はそれぞれ 11.6%、8.2% に認められた。女性は男性と比較してアルコール消費 (AOR = 0.17; 95% CI: 0.12–0.25) および AUD (AOR = 0.32; 95% CI: 0.20–0.51) の可能性が有意に低かった。また、塩分を多く含む加工食品を摂取する者 (AOR = 2.34; 95% CI: 1.62–3.39)、都市居住者 (AOR = 1.76; 95% CI: 1.33–2.31)、現喫煙者 (AOR = 2.23; 95% CI: 1.13–4.38) はアルコールを摂取する傾向が高かった。高学歴者はアルコール消費の可能性が高い (AOR = 4.34; 95% CI: 1.97–9.55) 一方で、AUD の可能性は低かった (AOR = 0.09; 95% CI: 0.02–1.87)。</p> <p>結論：カーボベルデにおける高血圧患者の間でのアルコール消費および AUD の高い有病率は、公衆衛生上の重点的介入の必要性を示している。特に男性、都市居住者、現喫煙者、高学歴者に重点を置いた戦略が必要である。高学歴者では AUD のリスクは低い、飲酒率は高いため、過度な飲酒のリスクに関する教育と責任ある飲酒の促進を両立させることが重要である。</p>		